



SWIFTNet

# Naming and Addressing Guide (ネーミング およびアドレッシングガイド)

本書は、SWIFTNet Release 6.1 向けの一般的なネーミングに関するガイドラインについて説明しています。識別、アドレッシング、セキュリティを目的とするネーミングの定義および使用に関するガイドラインが含まれています。サービスプロバイダー、アドミニストレーター、クローズドユーザーグループ (CUG) オーソリティ、セキュリティオフィサー、SWIFTNet サービスアプリケーションを導入するアプリケーションデベロッパー向けの情報が記載されています。

2007 年 11 月 30 日

## Legal Notices

### 著作権

Copyright © S.W.I.F.T. SCRL (“SWIFT”), Avenue Adèle 1, B-1310 La Hulpe, Belgium, or its licensors, 2007. All rights reserved.

本書を組織内でコピーすることは構いません。但し、以下の法的事項を必ず記載してください。

### 守秘義務

本書には SWIFT およびサードパーティの機密情報が含まれている場合があります。SWIFT から事前に書面による許可を得ずに、本書を組織外に開示することはできません。

### 免責事項

本書は情報提供のみを目的としています。内容は作成時点で最新のものですが、適宜変更される場合があります。必ず最新版を参照するようにしてください。

### 翻訳版について

本書は日本語参考訳です。英語版が正式版となります。

### 商標

SWIFT、S.W.I.F.T.、SWIFT ロゴ、Sibos、SWIFTNet、SWIFTAlliance、SWIFTStandards、SWIFTReady および Accord は S.W.I.F.T. SCRL の商標です。SWIFTSolutions、SWIFTWatch、SWIFTSupport など SWIFT から派生したその他のサービスおよび製品名は S.W.I.F.T. SCRL の商標です。SWIFT は S.W.I.F.T. SCRL の商号です。本書に記載されているその他の全ての製品または企業名は各所有者の商号、商標、または登録商標です。

# 序文

## 本書について

本書は、SWIFTNet Release 6.1 向けの一般的なネーミングに関するガイドラインについて説明しています。識別、アドレッシング、セキュリティを目的とするネーミングの定義および使用に関するガイドラインが含まれています。サービスプロバイダー、アドミニストレーター、クローズドユーザーグループ (CUG) オーソリティ、セキュリティオフィサー、SWIFTNet サービスアプリケーションを導入するアプリケーションデベロッパー向けの情報が記載されています。

以下のエンティティに対する認識スキームの詳細について説明しています:

- SWIFTNet に登録している SWIFT ユーザー
- ユーザーがメッセージアドレスで指定している取引先
- 電子証明書を使用する人間およびアプリケーション
- サービスおよびクローズドユーザーグループ (Closed User Groups、CUG)

本書の最新版は、[www.swift.com](http://www.swift.com) > Ordering & Support > Documentation で入手して頂くことができます。

## 本書の対象者

本書は以下の方を対象としています。:

- セントラルサービスの定義に責任があるサービスアドミニストレーター
- セキュリティオフィサー
- サービスアプリケーションを導入するアプリケーションデベロッパー

## 関連文書

- *SWIFTNet Service Description*
- *SWIFTNet Certificate Administration Guide*
- *SWIFTNet Messaging Operations Guide*
- *SWIFTNet FIN Phase 2 Planning Guide*
- *SWIFTNet Link Developers Toolkit* および *SWIFTAlliance WebStation Developers Toolkit* に含まれている *SWIFTNet Service Design Guide*
- *SWIFT Glossary*
- CUG サービスアドミニストレーターが発行する、ネーミングおよびアドレッシングガイドライン

# 目次

<b>1</b>	<b>SWIFTNet 識別子</b> .....	5
1.1	銀行コード (BIC) と企業識別コード (BEI) .....	5
1.1.1	目的 .....	5
1.1.2	BIC フォーマット .....	5
1.1.3	SWIFTNet ディレクトリ .....	6
1.2	識別名 (DN) .....	6
1.2.1	目的 .....	6
1.2.2	DN フォーマット .....	7
1.2.3	SWIFTNet メッセージ内の DN .....	9
1.2.4	SWIFTNet 識別子ルール .....	9
<b>2</b>	<b>アドレッシング DN</b> .....	11
2.1	目的 .....	11
2.2	内容 .....	11
2.3	ネーミングガイドライン .....	12
<b>3</b>	<b>セキュリティ DN</b> .....	13
3.1	目的 .....	13
3.2	内容 .....	14
3.3	ネーミングガイドライン .....	14
3.4	同等識別名 (DN) .....	17
<b>4</b>	<b>その他のアドレッシングエンティティ</b> .....	19
4.1	サービス名 .....	19
4.1.1	フォーマット .....	19
4.1.2	サービスセグメント .....	19
4.1.3	SWIFT 環境セグメント .....	20
4.1.4	アプリケーション環境セグメント .....	21
4.2	リクエストタイプ .....	22
4.3	ストアアンドフォワードキュー .....	23
<b>5</b>	<b>SWIFTNet FIN</b> .....	25
<b>6</b>	<b>SWIFTNet Browse</b> .....	26
6.1	証明書 DN .....	26
6.2	ウェブブラウザ証明書 DN .....	27
6.2.1	ネーミングガイドライン .....	27
6.2.2	フォーマット .....	28
6.3	ウェブサーバー証明書 DN .....	28
6.3.1	ネーミングガイドライン .....	28
6.3.2	フォーマット .....	29

# 1 SWIFTNet 識別子

## はじめに

本セクションは、ユーザーが SWIFTNet を利用する際にどのように識別されるかについて説明しています。また SWIFTNet 識別子の使用、フォーマット、登録についても説明しています。

**ノート** SWIFT ユーザーとは、SWIFT のメンバー、サブメンバー、パーティシパントのいずれかである金融機関や事業法人を指します。本書（*SWIFTNet Naming and Addressing Guide*）では、SWIFTNet に接続している金融機関および事業法人を SWIFT ユーザーと呼んでいます。

## 1.1 銀行コード（BIC）と企業識別コード（BEI）

### 1.1.1 目的

#### 識別

SWIFTNet において、銀行コード（Bank Identifier Code、BIC）は金融機関を識別します。企業識別コード（Business Entity Identifier、BEI）は金融機関以外の企業を識別します。

BIC および BEI の使用方法やフォーマットはほぼ同じです。そのため、本書で BIC に関して言及されている場合は BEI コードも含まれます。

**ノート** SWIFT はユーザーを法人組織および国ごとに登録します。SWIFT ユーザーは、少なくとも BIC もしくは BEI が 1 つ発行されている必要があります。

### 1.1.2 BIC フォーマット

#### ISO 標準 9362

BIC は ISO 標準 9362 に準拠しており、以下のフォーマットとなっています：

構成	説明	フォーマット
BBBB	銀行コード	アルファベット 4 文字
CC	国コード	ISO 標準 3166
LL	ロケーションコード	英数字 2 文字
(bbb)	支店コード（オプション）	英数字 3 文字

#### BIC8 と BIC11

BIC8 は、支店コードが含まれていない BIC です。BIC11 には支店コードが含まれています。本書では、BIC と記述されている場合は BIC8 を指します。

## 1.1.3 SWIFTNet ディレクトリ

### 内容

SWIFTNet ディレクトリには、公開鍵基盤（PKI）および電子署名能力を持つ全てのライブ BIC（メッセージおよびファイルの送受信に使用）が含まれています。

SWIFTNet ディレクトリに含まれる BIC により、SWIFT ユーザーは電子証明書用の下位名を作成し、その証明書の保存および管理をすることが可能となります。電子証明書に関するより詳細な情報は、“セキュリティ DN” ページの 13 を参照してください。

**ノート** SWIFT は、電子署名機能を持ったテスト&トレーニング（T&T）BIC を提供していません。よって、T&T BIC は SWIFTNet ディレクトリに含まれていません。

### 関連情報

BIC の登録および発行に関する情報は、[www.swift.com](http://www.swift.com) > Products & Services > Information products を参照してください。もしくは、SWIFT のホームページ（swift.com）の右上角にある **BIC directory** を選択してください。

## 1.2 識別名（DN）

### 1.2.1 目的

#### 詳細設定（granularity）および柔軟性の必要性

SWIFTNet 機関を識別するだけであれば BIC で十分ですが、BIC は SWIFTNet メッセージングのルーティングおよびセキュリティにおいて重要な要件である、名前の詳細設定（granularity）および柔軟性を提供していません。

名前は、以下のエンティティを識別できる必要があります：

- **機関もしくはその支店より小規模なエンティティ**

小規模なエンティティにエンドツーエンド認証およびセキュリティを提供するため、公開鍵基盤（PKI）は小規模エンティティ（人間やアプリケーションなど）を識別する、発行された名前を認証します。

- **機関および支店以外のエンティティ**

メッセージは取引先のエンティティ（機能ユニットや地理的ロケーションなど）に送信される場合があります。

#### 拡張 BIC

SWIFTNet 識別子は、オプションとして BIC 拡張子を追加することでこの詳細設定を提供しています。拡張子オプションについては、“DN フォーマット” ページの 7 を参照してください。

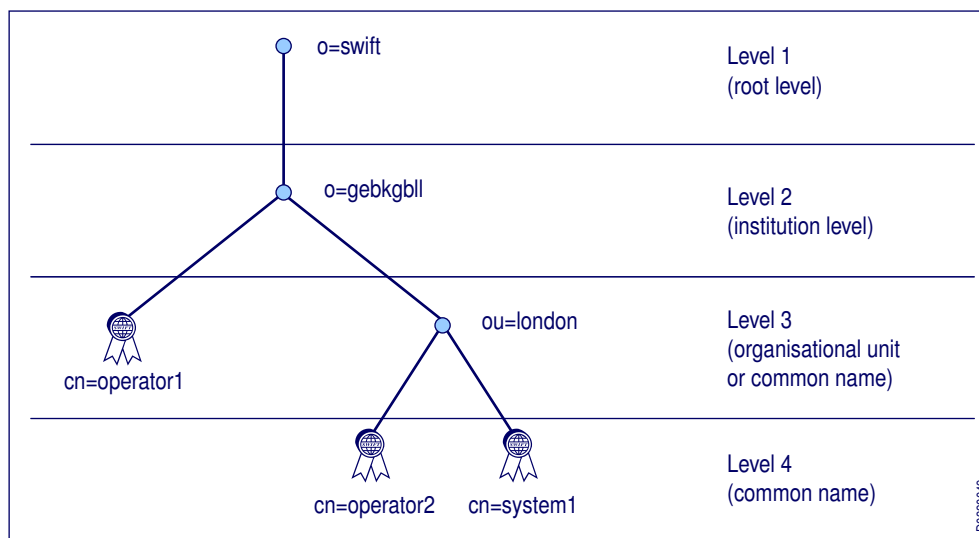
## 1.2.2 DN フォーマット

### セグメント化された構造

SWIFTNet 識別子は、X.500 に準拠したネーミングツールに従います。BIC を含むすべての識別子は、識別名 (Distinguished Name、DN) として定義されます。

DN はセグメント化された構造をしており、右から左に読まれます。グラフ表示の場合、これはトップダウンで読まれる階層構造に相当します。

### DN 階層構造 (トップダウン)



機関レベル (レベル 2) にある BIC は、DN を所有している SWIFT ユーザーを識別します。

### DN セグメント

セグメント	フォーマット	有無	セグメント数
ルートレベル (固定文字列)	o=swift	必須	1
機関レベル (SWIFT ユーザーの BIC <sup>(1)</sup> )	o=<bic8>	必須	1
組織ユニットレベル	ou=<name>	オプション	1 または複数
共通名レベル	cn=<name>	オプション	1 <sup>(3)</sup>
付番共通名レベル <sup>(2)</sup>	cn=%<number>	オプション	1

(1) サービスビューローは、自身の名前および DN でオペレーションを行いません。顧客の DN を使用し、顧客のためにオペレーション機能を実行します。より詳細な情報は、*Service Bureau Policy* を参照してください。

(2) 付番共通名については、“ウェブブラウザ証明書 DN” ページの 27 および“同等識別名 (DN)” ページの 17 を参照してください。

(3) セグメント数 1 が推奨されますが、特定のケースにおいて複数のセグメントが許可されます。

DN は以下のフォーマットを順守する必要があります:

- 全てのセグメントは“DN セグメント” ページの 7 に表示されているシーケンスで発生する必要があり、以下のように最下レベルにある DN セグメントが最初に発生するボトムアップ方式で表記されます: cn=<name>,ou=<name>,o=<bic8>,o=swift

- セグメントはカンマ ( , ) で区切られます
- 最大 100 文字まで
- スペースは使用できません
- セグメント数：最小 2、最大 10

---

**ノート** DN には、最大で 3 つもしくは 4 つのセグメント ( 付番共通名レベルを除き ) が  
あることが推奨されます。3 つの場合はアドレッシング、4 つの場合はセキュリ  
ティ用です。この制限に関するより詳細な情報は、“アドレッシング DN” ページ  
の 11 および“セキュリティ DN” ページの 13 を参照してください。

---

- <name>は以下の文字により構成されています：
  - 最小 2 文字
  - 最大 20 文字
  - 英数字：a ~ z (小文字のみ)、0 ~ 9、ハイフン (-)
- <number>は最大 2 桁の数字で構成されています。

### ボトムアップ表記

DN 表記は、以下のように最下にある DN セグメントが最初に発生するボトムアップ方式です：

```
cn=<name>,ou=<name>,o=<bic8>,o=swift
```

“DN 階層構造 ( トップダウン )” ページの 7 に記載されている例の DN 表記は以下の通りです：

```
cn=system1,ou=london,o=gebkgb11,o=swift
```

### 例

#### 識別名 ( DN )

エンティティタイプ	識別名 ( DN )
機関 ( BIC )	o=gebkgb11,o=swift
支店	ou=brc,o=gebkgb11,o=swift
機能ユニット	ou=payments,o=gebkgb11,o=swift
地理的ロケーション	ou=london,o=gebkgb11,o=swift
アプリケーション	cn=fincbt1,o=gebkgb11,o=swift
人間	cn=john-smith,o=gebkgb11,o=swift
ブラウザ	cn=%02,o=gebkgb11,c=ww

## 1.2.3 SWIFTNet メッセージ内の DN

### メッセージ構成

以下のように SWIFTNet InterAct、SWIFTNet FIN メッセージ、SWIFTNet FileAct ファイルには 3 つのメインセクションがあります：

セクション	識別子	例
アドレッシング	送信者（リクエスター DN） 受信者（リスポンダー DN） サービス名 リクエストタイプ	o=abcdus33,o=swift o=klmnfrpp,o=swift service.xyz camt.004.001.01
メッセージ内容	全ての識別子 <sup>(1)</sup>	
セキュリティ	認証者（認証者 DN） 署名者（署名者 DN）	cn=john-smith,o=abcdus33,o=swift cn=john-smith,o=abcdus33,o=swift

(1) メッセージ内容の識別スキームはフリーフォーマットです。多くの場合、識別スキームは SWIFT が発行する BIC8 および BIC11 を使用します。しかし、識別スキームはその他のあらゆる公的/私的識別スキームを含むことができます。

### アドレッシングおよびセキュリティ識別子

アドレッシングとセキュリティ識別子は異なるものです。アドレッシングおよびセキュリティ識別子に関する情報は、“アドレッシング DN” ページの 11 および“セキュリティ DN” ページの 13 を参照してください。

### SWIFTNet Browse 用の DN

SWIFTNet Browse 用の DN は匿名であり、HTTPS セッション認証に使用されます。より詳細な情報は“SWIFTNet Browse” ページの 26 を参照してください。

## 1.2.4 SWIFTNet 識別子ルール

### SWIFTNet InterAct および SWIFTNet FileAct

アドレッシング DN（リクエスター DN もしくはリスポンダー DN）の機関レベル（レベル 2）にある BIC8 は、メッセージおよびファイルの送信者もしくは受信者を識別します。メッセージおよびファイルがエンドツーエンドで署名されている場合、セキュリティ DN（署名者 DN）の機関レベル（レベル 2）にあり、メッセージ/ファイルの署名に使用された BIC8 により、当該メッセージ/ファイルを送信した SWIFT ユーザーの認証が可能となります。

### ルール

SWIFTNet 識別子は以下のルールを順守する必要があります：

- SWIFTNet 識別子は、メッセージおよびファイルに関して責任がある SWIFT ユーザーを代表します（DN の機関レベル（レベル 2）において BIC8 で識別された通り）。従って、ユーザーは BIC8 もしくはその他の法人組織により識別された国以外のロケーションを識別する拡張子を使用することはできません。Typically, an extension cannot serve to identify a foreign branch of the SWIFT user's organisation, or another user or any other third-party company, corporation, or association.
- SWIFT のサービスおよび製品に登録する際、ユーザーは常にその属する SWIFTNet 識別子（DN の機関レベルにある BIC8 により識別されたもの）を使用する必要があります。従っ

て、ユーザーは BIC8 もしくはその他の法人組織により識別された国以外のロケーションを識別する拡張子を使用することはできません。例えば、ディレクトリに記載される SWIFTNet 識別子の説明に、その BIC8 もしくはその他の法人組織により識別された国以外のロケーションが言及されていないはいけません。

これらのルールは、間接接続（他のユーザーやサービスビューローを経由した接続）の場合でも適用されます。こうした場合、送信者および受信者は SWIFTNet 接続を所有しているエンティティの識別子ではなく、自身の SWIFTNet 識別子で識別される必要があります。

## 例

### 有効/無効な識別名（DN）

有効性	DN	場所/状況など
有効（許可される）	ou=payments,o=gebkgb11,o=swift	payments 拡張子が gebkgb11 に属している機能ユニットを識別する
	ou=manchester,o=gebkgb11,o=swift	manchester 拡張子が、gebkgb11 と同国内にある他の地理的ロケーションを識別する
無効（許可しない）	ou=abcdgb11,o=gebkgb11,o=swift	拡張子内の BIC abcdgb11 が、gebkgb11 に属さない別の法人組織を識別する
	ou=gebkus33,o=gebkgb11,o=swift	拡張子内の BIC gebkus33 が、gebkgb11 で識別されている国以外の国を識別する

## 2 アドレッシング DN

### はじめに

本セクションは、SWIFTNet InterAct および SWIFTNet FileAct 内におけるアドレッシング DN (リクエスター DN、レスポnder DN) を使用したメッセージルーティングとメンバーシップ管理について説明しています。本セクションの内容は、SWIFTNet Browse および SWIFTNet FIN には適用されません。

SWIFTNet Browse における識別名 (DN) の使用に関する情報は、“SWIFTNet Browse” ページの 26 を参照してください。FIN アプリケーションにおけるルーティング制限に関する情報は、*SWIFTNet FIN Service Description* を参照してください。

## 2.1 目的

### ルーティングおよび管理

アドレッシング DN (識別名) は以下の目的で使用されます:

- **メッセージルーティング**

SWIFTNet は、メッセージを適切な SWIFTNet Link (SNL) に送信するためにアドレッシング DN を使用します。

- **メンバーシップ管理**

SWIFTNet は、取引先がクローズドユーザーグループ (CUG) 内におけるメッセージの送受信が許可されているかどうかを検証するためにアドレッシング DN を使用します。

アドレッシング DN は、取引先にとって意味があるエンティティ (BIC や機関の機能ユニットなど) を識別します。

## 2.2 内容

### アドレッシングセクションの内容

SWIFTNet メッセージのアドレッシングセクションは、以下の 4 つの識別子により構成されています:

識別子	説明
リクエスター DN	メッセージの送信者
レスポnder DN	メッセージの受信者
サービス名	ユーザーがメッセージを送信した際のサービス (どのサービス内からメッセージを送信したか)
リクエストタイプ	メッセージのリクエストタイプ

**ノート** リクエスター DN およびレスポnder DN は**アドレッシング DN** として知られています。

## 2.3 ネーミングガイドライン

### 有意かつ安定した名前

アドレッシング DN がエンティティを識別する際、取引先にとって意味があり、かつルーティングに適切な方法であることが重要です。

### フォーマット

アドレッシング DN では、以下のフォーマットの使用が推奨されます：

- 最大セグメント数を 3 つに制限。SWIFT ユーザーは複数のサービスおよびクローズドユーザーグループ (CUG) に参加することができますが、それぞれネーミングの慣例が異なります。このため、アドレッシング DN の管理にかかる手間を考慮し、セグメント数を制限することが推奨されます。ルーティングのために詳細設定が必要なユーザーは 3 セグメント DN を使用します。それ以外のユーザーは 2 セグメント DN で十分でしょう。
- 使用可能な拡張子は全て以下のエンティティを識別できる必要があります：
  - 地理的ユニット、組織ユニット
  - 支店名
- アドレッシング DN 用の拡張子には、部門、担当者、アプリケーションなどの変わりやすいエンティティが含まれてはいけません。さらに、このようなエンティティを使用すると SWIFT ユーザーの組織構成が取引先から見えてしまうことを意味します。

**ノート** 特定のサービスのために設定する際、ユーザーが SWIFT に構成を依頼する DN 内の BIC は、SWIFT サービス加入者の BIC と一致する必要があります。

### サービスアドミニストレーターによる推奨

サービスアドミニストレーターは、アドレッシング DN が特定のサービス用として識別するエンティティのタイプを決定します。また、サービスアドミニストレーターは DN のサードレベルで使用可能な値リストを規定することができます。サードレベルで使用可能な値に関するより詳細な情報は、サービスアドミニストレーターが提供している関連サービスドキュメントを参照してください。

### 例

#### 推奨されるアドレッシング DN

タイプ	アドレッシング DN
機関 (BIC)	o=gebkgb11,o=swift
支店	ou=brc,o=gebkgb11,o=swift
地理的ロケーション	ou=london,o=gebkgb11,o=swift
機能ユニット	ou=payments,o=gebkgb11,o=swift

### 関連情報

クローズドユーザーグループ (CUG) およびメッセージ受信レジストリ (Message Reception Registry、MRR) に関するより詳細な情報は *SWIFTNet Service Description* および *SWIFTNet Messaging Operations Guide* を参照してください。

## 3 セキュリティ DN

### はじめに

本セクションは、SWIFTNet PKI 証明書に含まれるセキュリティ識別名（セキュリティ DN）について説明しています。セキュリティ DN は、SWIFTNet InterAct、SWIFTNet FileAct、SWIFTNet FIN におけるメッセージセキュリティのために使用されます。セキュリティ DN は、メッセージのセキュリティセクションに含まれています。

アドレッシング DN と異なり、セキュリティ DN は認証されたエンティティです。認証されたエンティティとは、有効な PKI 証明書を持ち、メッセージの電子署名にそれを使用するエンティティを指します。

本セクションの内容は SWIFTNet Browse には適用されません。SWIFTNet Browse における識別名（DN）の使用に関する情報は、“SWIFTNet Browse” ページの 26 を参照してください。

## 3.1 目的

### エンドツーエンドセキュリティ

SWIFTNet 上でのエンドツーエンドセキュリティは、SWIFTNet PKI およびそれに伴う PKI 証明書に基づいています。

エンドツーエンドセキュリティは、メッセージに署名して送信する人間もしくはアプリケーションから始まり、メッセージを受信して署名を検証する人間もしくはアプリケーションで終わります。

特定の条件下において、エンドツーエンドセキュリティにはメッセージの暗号化と復号化も含まれます。

### 証明書 DN

SWIFT Certificate Authority（証明書認証）は、各エンティティ（人間もしくはアプリケーション）に個別の電子証明書を送信します。この証明書には、人間もしくはアプリケーションの名前が含まれています。この名前は識別名（DN）であり、証明書を識別するものであるため、証明書 DN と呼ばれています。

証明書に関するより詳細な情報は、*SWIFTNet Certificate Administration Guide* を参照してください。

### 関連情報

認証者 DN は、ユーザーアクセス権限を定義するロールベースアクセス管理（RBAC）ロールを持っている場合があります。より詳細な情報は、*SWIFTNet Certificate Administration Guide* を参照してください。

SWIFTNet PKI 証明書を管理する SWIFT ユーザーの契約上の義務に関するより詳細な情報は、*SWIFTNet Service Description* を参照してください。また、メッセージに電子署名をつける方法についても同ドキュメントを参照してください。

## 3.2 内容

### 認証者 DN および署名者 DN

メッセージのセキュリティセクションには、認証されているオペレーション可能なエンティティを識別する、以下の 2 つの証明書 DN が含まれています:

- **認証者 DN (SWIFT によるメッセージ認証)**

認証者 DN は、メッセージエンベロープに署名して SWIFTNet でメッセージを送信した、PKI 認証されているエンティティを識別します。認証者 DN を使用するのは SWIFT のみです。メッセージを検証した後、SWIFT はメッセージから認証者 DN を削除します。

認証者 DN にある BIC は、リクエスター DN にある BIC と同じである必要があります。SWIFT は BIC が一致しているかどうかを検証します。

- **署名者 DN (オプション。受信者によるメッセージ認証および整合性確認)**

署名者 DN は、メッセージの内容をエンドツーエンドで署名した PKI 認証されているエンティティを識別します。

ほとんどの場合、署名者 DN は認証者 DN と同じです。署名者 DN は、メッセージを作成および送信した人間もしくはアプリケーションを代表します。

---

**ノート**      エンドツーエンド暗号化が使用されている場合、暗号化 DN により、誰のためにメッセージを暗号化するのかを送信者が識別することが可能になります。暗号化 DN は、メッセージを暗号化する目的者（人間もしくはアプリケーション）を代表します。

---

### 検証

DN が人間もしくはアプリケーションを正しく識別することを、SWIFT は保証するものではありません。

また、SWIFT は認証者 DN および署名者 DN 内にある BIC がメッセージ内容の BIC と同じであるかどうかは検証しません。

---

**重要**      SWIFT は、署名者 DN 内にある BIC が FIN メッセージヘッダー内のものと同じであるかどうかを検証します。

---

## 3.3 ネーミングガイドライン

### サービス指定なし (中立) および非有意名

証明書 DN は以下のガイドラインを順守する必要があります:

- **サービス指定なし (中立)**

人間を識別する証明書 DN には、サービス名が含まれません。人間は証明書を 1 通しか持つことができず、エンティティの DN が含まれるこの証明書を複数のサービスで使用するため、サービス名は記載されません。

対照的に、アプリケーションを識別する DN は他のアプリケーションに使用されることはないため、サービス名を指定することができます。

- **非有意名**

多くの場合、証明書 DN が取引先に対して有意である必要はありません。

受信者にとって、BIC が合っている限り、メッセージを署名したのが john-smith でも application03 でも構わないからです。

## フォーマット

証明書 DN のフォーマットは以下の要素に影響されます：

- **サービスアドミニストレータールール**

アドレッシング DN の場合と同様に、サービスアドミニストレーターは証明書 DN のネーミングルールを規定します。新たな証明書を作成する際、セキュリティオフィサーはこのネーミングルールを使用する必要があります。

- **容易な証明書管理の必要性**

通常、受信者側で拡張子を読む/解釈することはしないため、セキュリティオフィサーはある程度自由に証明書 DN を作成することができます。しかし、セキュリティオフィサーは証明書の識別および管理が容易であるようにする必要があります。

各機関のセキュリティオフィサーは、証明書を発行するプロセスの一部として拡張子を作成します。優れた実践のため、送信者の機関における証明書保持者に関する詳細を拡張子に含めることが推奨されます。

- **機関のセキュリティプラクティス**

機関のセキュリティプラクティスは証明書 DN の構造に影響します。以下は、証明書 DN の構造に影響を与える可能性があるセキュリティプラクティスの例です：

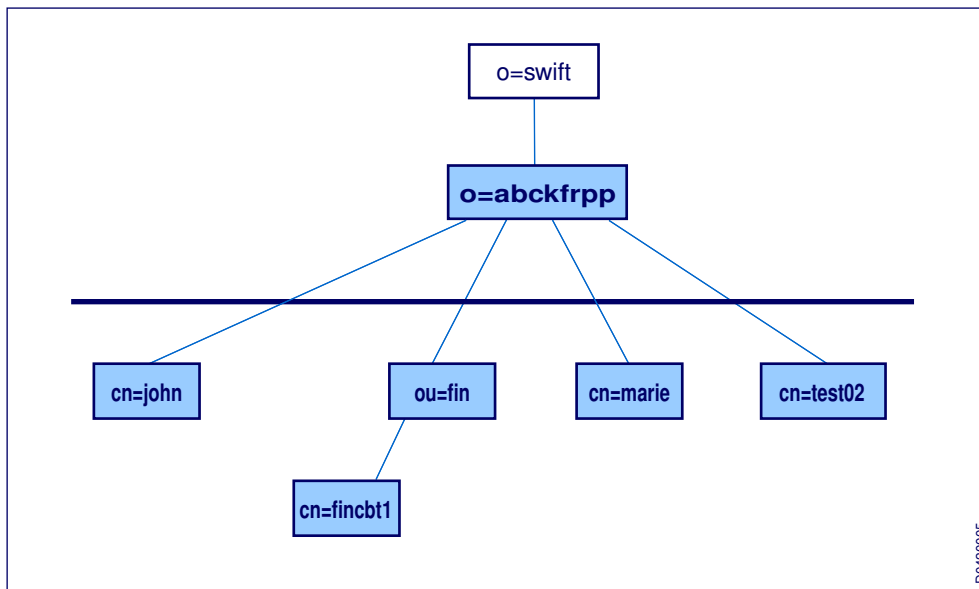
- 耐障害性戦略
- 証明書の内部管理
- テスト専用証明書の有無

同じエンティティを代表する複数の物理的証明書におけるネーミングフォーマットに関する情報は、「同等識別名 (DN)」 ページの 17 を参照してください。

## 証明書 DN ツリー

サービスアドミニストレーターもしくは機関は、登録しているサービスに必要な全ての認定 DN を定義する必要があります。全ての認定 DN は、下記例のようにツリーとして総合的に表示することができます。

### 証明書 DN ツリー例



## 例

### オペレーション可能なエンティティの推奨タイプ用の証明書 DN 例

エンティティタイプ	証明書 DN
アプリケーション	cn=test02,o=abckfrpp,o=swift
人間	cn=marie,o=abckfrpp,o=swift

### サービスアドミニストレーターネーミングルール例

サービス	DN が代表するもの	証明書 DN
RTEL	人間	cn=john,o=abckfrpp,o=swift
RTGS+	人間	cn=john,o=abckfrpp,o=swift
SWIFTNet FIN	CBT ID (アプリケーション)	cn=fincbt1,ou=fin,o=abckfrpp,o=swift

## 3.4 同等識別名 (DN)

### 概要

同等識別名 (DN) は、同じエンティティ (アプリケーションおよび人間) を識別する複数の DN のネーミングフォーマットを標準化する、特定のネーミングスキームを参照します。同等 DN は、DN の最下セグメントにある付番された共通名を使用し、同じエンティティを確認する複数の DN を識別します。付番された共通名は、%マークおよび 1 桁または 2 桁の数字で構成されています。合意されているこのネーミングスキームに基づき、同等 DN は機能的には同等だが物理的に区別される証明書を識別します。例えば、同等 DN は特定の条件下でセキュリティオフィサー (SO) の証明書に適用されます。

より詳細な情報は、*SWIFTNet Certificate Administration Guide* を参照してください。

**ノート** 同等 DN は、サービスアドミニストレーターが規定するオプション契約です。SWIFT は同等 DN ネーミングスキームの使用を検証しません。仮に、例外的な状況において取引先が証明書 DN 内の cn 部分に従って対応したい場合、取引先も同等 DN を同じように扱う必要があります。

**ノート** 証明書の自動更新および鍵の更新において問題が発生するため、証明書をホスト間でコピーすることは推奨されません。ホストごとに個別の証明書を設定し、これらの証明書を識別するために同等 DN スキームを使用することが推奨されます。

### 例

構成に 2 つ同時にアクティブなシステムがある場合、両方のホストシステムに個別の物理的証明書が必要となります。しかしアプリケーションの場合、いずれの署名も完全に同等であると見なされます。

DN host 1	cn=%01,cn=server-x,o=mnopfrpp,o=swift
DN host 2	cn=%02,cn=server-x,o=mnopfrpp,o=swift

どのホストが使用されているのかをアプリケーションに対して明白にするため、各ホストにある物理的証明書を識別する DN は同等である必要があります (上記の例を参照)。またアプリケーションは DN の付番共通名セグメント (%01 など) を無視して共通部分のみを確認します。同等 DN により識別されるエンティティが RBAC ロールを持っている場合、同じロールを共有している必要があります。

### 同等 DN と SWIFTAlliance Gateway

2 つの異なる SWIFTAlliance Gateway (SAG) システムを通じて同時に SWIFTNet にアクセスするビジネスアプリケーションは、別個の DN により識別される 2 つの別の証明書を使用しなければなりません。しかし、SAG では同等 DN を使用することで、2 つの DN の違いをアプリケーションに対して明確にすることができます。

SAG における同等 DN の使用に関するより詳細な情報は、*SWIFTAlliance Gateway Operations Guide* を参照してください。

同等 DN の認証に関するより詳細な情報は、*SWIFTNet Resilience Guide* を参照してください。

### 複数の同等 DN

例えば SWIFT ユーザーがホストに証明書 DN を作成し、後に同等のホストを 2 つ追加することにした場合、この合計 3 つの DN を同等に扱う必要があります。以下の表は、複数の同等 DN の扱いについて説明しています。

最初のホストの DN	<code>cn=server-x,o=mnopfrpp,o=swift</code>
2 番目のホストの DN	<code>cn=%01,cn=server-x,o=mnopfrpp,o=swift</code>
3 番目のホストの DN	<code>cn=%02,cn=server-x,o=mnopfrpp,o=swift</code>

## 4 その他のアドレッシングエンティティ

### 4.1 サービス名

#### 4.1.1 フォーマット

##### サービス名セグメント

サービス名は、以下の表に記されたセグメントにより構成されています：

セグメント	有無	説明
<service>	必須	サービス名を識別します
<swift-environment>	任意	サービスのオペレーション環境を識別します
<application-environment>	任意 <sup>(1)</sup>	サービスのバージョンを識別します

(1) <swift-environment>が空白ではない場合にのみ許可されます。

サービス名には以下のフォーマットが適用されます：

- 最大 30 文字まで（区切りとして使用するピリオド、特殊文字「！」も含め）
- セグメントはピリオド（.）で区切られます

サービス名セグメントのフォーマットに関する詳細は、“サービスセグメント” ページの 19、“SWIFT 環境セグメント” ページの 20、“アプリケーション環境セグメント” ページの 21 を参照してください。

##### サービス名の例

boe.rtel

bbk.rtgplus!pu

#### 4.1.2 サービスセグメント

##### フォーマット

<service>セグメントは、実際のサービスの名前であり、以下に記載されたセグメントから構成されています：

セグメント	有無	頻度	説明
<authority>	必須	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• サービスアドミニストレーターを識別します</li> <li>• サービスアドミニストレーターと SWIFT の間で合意の上、固有のサービス名を作成</li> <li>• ライブ稼働における例： boe、bbk、clsb</li> </ul>

セグメント	有無	頻度	説明
<application>	必須	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>セントラルアプリケーションおよびサービスを識別します</li> <li>ライブ稼働における例：cls、rtgsplus、rtel</li> </ul>
<sub-application>	任意	複数	<application>内にある詳細設定コンポーネントを識別します

<service>セグメントは以下のフォーマットが適用されます:

- 英数字：a～z（小文字のみ）、0～9  
（履歴上の理由により、アルファベットの大文字が含まれているサービスセグメントもあります）
- セグメントはピリオド（.）で区切られます

### 略語

以下の略語は、SWIFTNet メッセージングサービスを識別するために使用されます:

略語	SWIFTNet メッセージングサービス
ia	SWIFTNet InterAct で稼働するサービスです
fa	SWIFTNet FileAct で稼働するサービスです
br	SWIFTNet Browse で稼働するサービスです

以下の略語は、サービスモードを識別するために使用されます:

略語	サービスモード
rt	リアルタイム
st	ストアアンドフォワード

### 例

サービス名	説明
swift.generic.fa	汎用 SWIFTNet FileAct サービス
swift.generic.fast	汎用 SWIFTNet FileAct のストアアンドフォワードサービス
bita.brl.ntis	サービスアドミニストレーターが定義したサービス名

## 4.1.3 SWIFT 環境セグメント

### フォーマット

<swift-environment>セグメントには以下のいずれかの値が含まれており、サービスのオペレーションステータスを識別します。:

値	利用
!p	<ul style="list-style-type: none"> <li>SWIFT 本番環境ネットワークのパイロットステータスで稼働するサービス用です</li> <li>ライブリリース前に、SWIFT ユーザーによるサービスの現在および未来バージョンのテストを可能にします</li> </ul>

値	利用
!x	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SWIFT Integration TestBed (ITB) ネットワークで稼働する、開発中のサービス用です</li> <li>• ベンダーやサービスプロバイダーによる、開発中のサービスのテストを可能にします</li> </ul>
空白	<swift-environment>セグメントが空白の場合、サービスのオペレーション環境がライブ稼働であることを示します

## 例

サービス名	説明
swift.generic.fast!p	パイロットサービスのサービス名
swift.generic.fa	ライブサービスのサービス名

## 4.1.4 アプリケーション環境セグメント

### フォーマット

アプリケーション開発は、並列テストシナリオを可能にする複数のテスト環境を必要とします。<application-environment>識別子は、テスト(!x)およびパイロット(!p)段階の両方において、このようなテストシナリオに必要なバージョンを提供します。

<application-environment>値は、サービスアドミニストレーターが全て定義します。しかし、その際は以下の表に記載されている値を使用することが推奨されます。:

セグメント	値	頻度
<test-stage>	d (開発) i (統合テスト) u (ユーザー受理)	値は1つのみ
<release>	0 (現在) 1 (次) 2 (次の次) 以下同様	値は1つのみ

<application-environment>セグメントは以下のフォーマットが適用されます:

- 英数字: a ~ z (小文字のみ)、0 ~ 9  
(履歴上の理由により、アルファベットの大文字が含まれているサービスセグメントもあります)
- 最大2文字の使用が推奨されます

**重要** ライブ段階においてユーザーは1つのサービスバージョンしか使用できないため、サービスアドミニストレーターは<application-environment>インジケータを使用してはいけません。

例

サービス名	説明
bbk.rtgspplus!pu	パイロットシステムのユーザー受理用のサービス名
eba.step2!pu1	パイロットシステムのユーザー受理の次回リリース用のサービス名

## 4.2 リクエストタイプ

### 目的

各 SWIFTNet ヘッダーに含まれているリクエストタイプは、以下の役割を果たします:

- メッセージおよびファイルの内容を識別
- クローズドユーザーグループ (CUG) 内で、特定の通信フロー用にルールを設定することを可能にする
- メッセージおよびファイルの内容に基づいた通信のルーティングを可能にする

### フォーマット

リクエストタイプは、最大 30 文字の英数小文字 (a ~ z, 0 ~ 9) を含むことができます。これには、セグメントを分離するために使用するピリオド[.]も含まれます (例: pacs.fin.mt102)。

以下のリクエストタイプフォーマットは SWIFTNet FileAct において必須であり、また SWIFTNet InterAct においても使用が強く推奨されます。フォーマットの詳細は、以下のファイルタイプおよびメッセージ内容によって異なります。:

1. SWIFT 標準 XML メッセージ リクエストタイプには、SWIFT 標準により定義された個別のメッセージ識別子が含まれている必要があります。例: camt.004.001.01
2. 送信完了通知は、リアルタイムモードの SWIFTNet FileAct で使用されます。リクエストタイプには、xsys.xxx.delnotif が含まれている必要があります。
3. ANSI DSTU X9.37 2003 標準フォーマットで構造化された、小切手イメージ。リクエストタイプには、camt.xxx.chequeimages が含まれている必要があります。
4. メッセージ内容が上記のいずれでもない場合、リクエストタイプフォーマットは以下のようになります:

セグメント	値	フォーマット
<area>	ファイルおよびメッセージ内容が属する業務範囲を指定します	4 文字 (小文字) のビジネスコード <sup>(1)</sup>
<syntax_and_format>	使用されている構文およびフォーマットを指定します	英数字: a ~ z (小文字のみ <sup>(2)</sup> )、0 ~ 9。スペースや特殊文字は使用できません。

(1) 認証されたビジネスコードの一覧表は、*SWIFTNet Messaging Operations Guide* に記載されています。

(2) 履歴上の理由により、大文字が含まれているリクエストタイプもあります。

以下の表は、<syntax\_and\_format>のフォーマットを示しています:

メッセージ内容	フォーマット	リクエストタイプ例
同じメッセージタイプの FIN メッセージ	fin.mt<nnn> <nnn>がメッセージタイプです	pacs.fin.mt102
全て同じ FIN メッセージカテゴリに属する、複数タイプの FIN メッセージ	fin.mt<n>xx	pacs.fin.mt1xx
複数の FIN メッセージカテゴリに属する、複数タイプの FIN メッセージ	fin.mtxxx	pacs.fin.mtxxx
その他のフォーマット	xxx.<description> .<description>は任意です	pacs.xxx.ciri pacs.xxx

## ルール

リクエストタイプは、特定のルールを順守する必要があります。これらのルールに関するより詳細な情報、および SWIFTNet InterAct と SWIFTNet FileAct におけるリクエストタイプの詳細な情報については、*SWIFTNet Messaging Operations Guide* を参照してください。

## 4.3 ストアアンドフォワードキュー

### 目的

ストアアンドフォワードキューは、受信者がストアアンドフォワードメッセージおよびファイルを取得するキューです。

### フォーマット

ストアアンドフォワードキューは、以下の表に記されたセグメントにより構成されています:

セグメント	値	フォーマット
bic8	SWIFT ユーザーの BIC コードです	英数字: a ~ z (小文字のみ), 0 ~ 9
_ <purpose>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロケーション、部署、特定のサービス (サービス名) を識別します</li> <li>generic は使用できません</li> </ul>	英数字: a ~ z (小文字のみ。スペースは使用不可), 0 ~ 9
<environment>	<ul style="list-style-type: none"> <li>!x (ITB)</li> <li>!p (パイロット)</li> <li>empty (ライブ)</li> </ul>	任意、2文字

ストアアンドフォワードキュー名には、以下のフォーマットが適用されます:

- 最大 30 文字

### デフォルトキュー

ユーザーがストアアンドフォワードサービスに最初に登録した際、SWIFT は関連環境（パイロットおよびライブ）用として各ユーザーにデフォルトキューを自動的に作成します。例：  
gebkgbll\_generic!p、gebkgbll\_generic

### 例

#### ストアアンドフォワードキュー名

BIC8	目的	環境	例
gebkgbll	ほとんどの場合、デフォルトキューが適切	ライブ	gebkgbll_generic
gebkgbll	□□□□	ライブ	gebkgbll_payments
gebkgbll	□□□□□□	パイロット	gebkgbll_invfunds!p
gebkgbll	□□□□□□□□□□	ITB	gebkgbll_cashgmt!x

### 関連情報

ストアアンドフォワードキューに関するより詳細な情報は、*SWIFTNet Service Description* および *SWIFTNet Messaging Operations Guide* を参照してください。

## 5 SWIFTNet FIN

### SWIFTNet メッセージエンベロープ

SWIFTNet FIN は、二重のネーミングおよびアドレッシングスキームを適用します。SWIFTNet FIN メッセージは、SWIFTNet メッセージエンベロープに入れられた状態でユーザーから SWIFT（もしくは SWIFT からユーザー）に送信されます。

SWIFT は SWIFTNet FIN ユーザーの SWIFTNet 取引先であるため、SWIFTNet メッセージエンベロープは多対一アドレッシングスキームに準拠しています。

### SWIFTNet FIN インプットメッセージ構成

SWIFTNet FIN インプットメッセージにおいて、リクエスター識別名（リクエスター DN）はユーザーの SWIFTNet FIN インターフェースの DN です。

以下の業務慣行が推奨されます：

- 以下のリクエスター DN の例のように、SWIFTNet FIN インターフェースを識別します：  
cn=fincbt1,o=abcdus33,o=swift
- 認証者 DN に同じ DN を使用する
- 可能であれば、署名者 DN に同じ DN を使用する

- ノート**
- リスポンダー DN は、常に SWIFTNet FIN Bridge を識別するため固定されています。SWIFTNet FIN Bridge は SWIFTNet FIN 内にあるコンポーネントで、FIN サービス、SWIFTNet アクセス、通信インフラ間にブリッジを構築します。
  - 署名者 DN 内にある BIC は、FIN メッセージヘッダー内のものと同じである必要があります。

### 例

#### SWIFTNet FIN インプットメッセージ

メッセージセクション	識別子	DN
アドレッシング	リクエスター DN リスポンダー DN サービス名 リクエストタイプ	cn=fincbt1,o=abcdus33,o=swift cn=fbl,cn=fin,o=swift,o=swift swift.fin -
メッセージ内容	SWIFTNet FIN メッセージ	{FIN□□□□1□5}
セキュリティ	認証者 DN 署名者 DN	cn=fincbt1,o=abcdus33,o=swift cn=fincbt1,o=abcdus33,o=swift

## 6 SWIFTNet Browse

### はじめに

本ドキュメントは、SWIFTNet Browse サービスが HTTPS セッションという立場でのみ機能している場合について説明しています。

### 6.1 証明書 DN

#### 目的

SWIFTNet Browse 証明書識別名（証明書 DN）は、以下の要素を識別します：

- SWIFTNet ユーザーのウェブブラウザ
- サービスプロバイダーのウェブサーバー

各機能に異なる DN を用いてアドレッシングとセキュリティを分離させるという原則は、SWIFTNet Browse には当てはまりません。代わりに、SWIFTNet Browse の証明書 DN は以下の両方の役割を果たします：

- リクエスター（常にウェブブラウザ）が、URL を通じてレスポンス（常にウェブサーバー）にアドレッシングします。URL はウェブサーバーの証明書 DN に含まれます。
- HTTPS セッション確立中における相互認証および暗号化は、ウェブブラウザおよびウェブサーバーの証明書 DN に基づいています。

従って、アドレッシング DN は SWIFTNet Browse では使用されません。

#### ウェブ証明書

ウェブ証明書は、ウェブブラウザとウェブサーバー間における安全な HTTPS セッションを構築します。

SWIFTNet Browse にある証明書は、SWIFTNet InterAct および SWIFTNet FileAct にあるものとは異なります。

#### 別個のサブツリー

SWIFTNet InterAct（もしくは SWIFTNet FileAct）と SWIFTNet Browse の両方を使用する SWIFTNet ユーザーは、以下のように別個のサブツリーを持っています：

- SWIFTNet InterAct および SWIFTNet FileAct 証明書用のサブツリー
- ウェブ証明書用のサブツリー

#### 関連情報

ウェブ証明書に関するより詳細な情報は、*SWIFTNet Certificate Administration Guide* を参照してください。

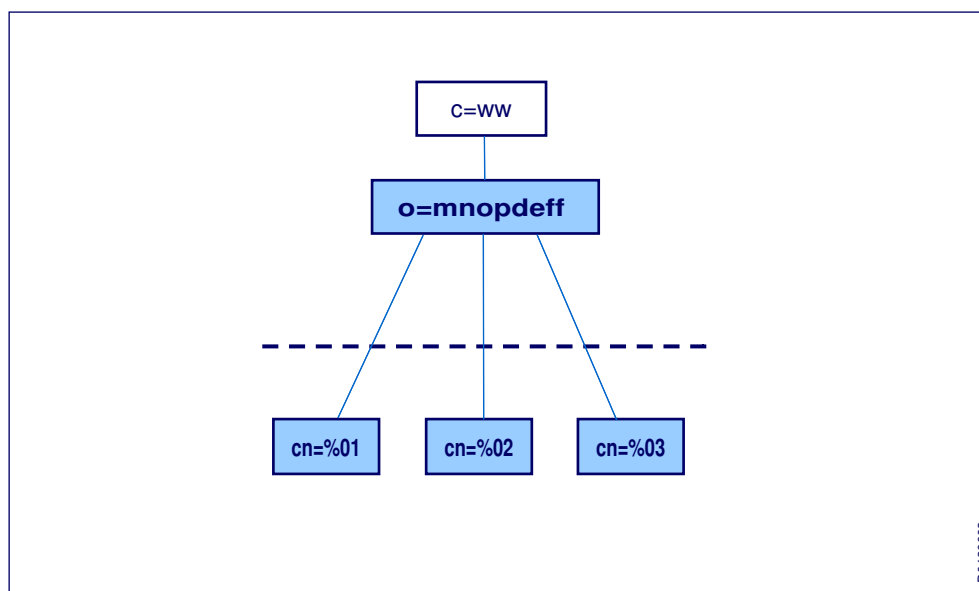
## 6.2 ウェブブラウザ証明書 DN

### 6.2.1 ネーミングガイドライン

#### ウェブブラウザネーミングガイドライン

ウェブブラウザ用の証明書識別名（証明書 DN）には、BIC および数字または文字列が含まれています。以下の図は、3つのウェブブラウザを持つ SWIFT ユーザーの例を示しています。

#### ウェブブラウザ例



ウェブ証明書用のサブツリーは、SWIFTNet InterAct および SWIFTNet FileAct 証明書用のサブツリーとは別個のものです。ウェブ証明書用のサブツリーは、`c=ww` で始まります。

SWIFTNet InterAct および SWIFTNet FileAct 用の証明書は、`o=swift` で始まります（“証明書 DN ツリー例” ページの 16 を参照）。

証明書の DN において、ウェブサーバーに関連しているのは BIC のみです。DN 内にある数字もしくは文字列に意味はありません。

SWIFTNet Browse は取引には使用されないため、証明書 DN はブラウザを使用している人間の識別は行いません。取引の場合は、各メッセージに電子署名および否認防止をつける必要があります。従って、取引の場合は SWIFTNet InterAct または SWIFTNet FileAct を使用する必要があります。

#### 関連情報

様々な SWIFTNet メッセージングサービスの使用に関するより詳細な情報は、*SWIFTNet Service Description* を参照してください。

## 6.2.2 フォーマット

### X.500 DN セグメント

ウェブブラウザ証明書用の X.500 準拠 DN は、以下の表にあるセグメントから構成されています:

#### ウェブブラウザ DN セグメント

セグメント	フォーマット	有無	頻度
固定文字列	c=ww	必須	1
SWIFT ユーザーの BIC コード	o=<bic8>	必須	1
共通名または付番共通名	cn=<string> □□□ cn=%<number>	必須	1

### ウェブブラウザ DN ルール

ウェブブラウザ DN には、以下のガイドラインが適用されます:

- <number>は最大 2 桁の数字で構成されています
- cn=<Any string>,o=<bic8>,c=ww

**ノート** SWIFT は、ウェブサーバーノード用にサブストリング `swiftnet.sipn.swift.com` を確保しています。ユーザーはこのサブストリングを使用することはできません。

- 全てのセグメントは、“ウェブブラウザ DN セグメント” ページの 28 に記載されているシーケンスで発生する必要があります
- セグメントはカンマ ( , ) で区切られます
- ウェブブラウザ DN は最大 100 文字まで可能です

### 例

#### ウェブブラウザ DN

ウェブブラウザ DN	cn=%03,o=mnopdef,c=ww
または	cn=mybrowser,o=abcdbebb,c=ww

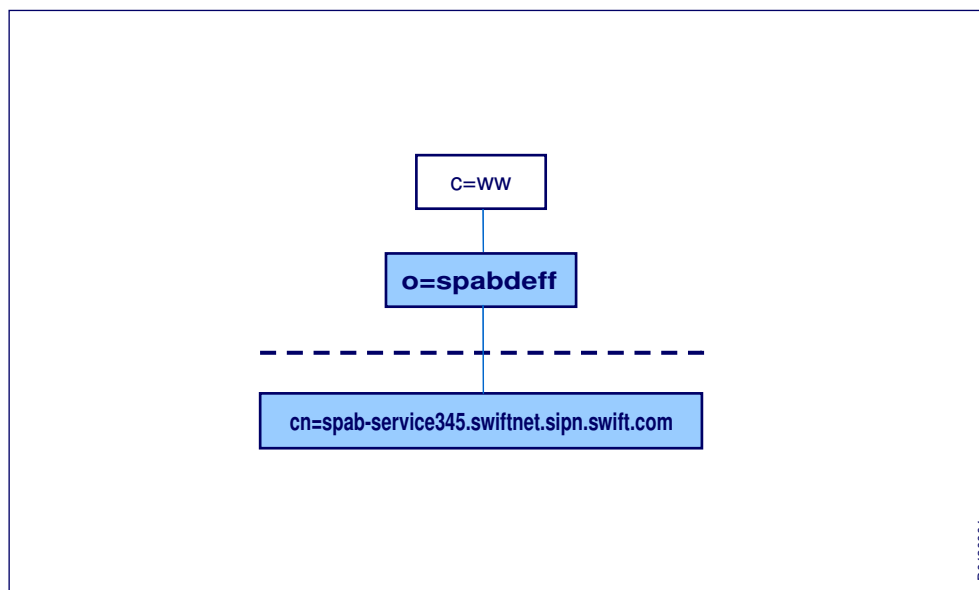
## 6.3 ウェブサーバー証明書 DN

### 6.3.1 ネーミングガイドライン

#### BIC および URL

サービスプロバイダー側にある SWIFTNet Browse 証明書識別名 (証明書 DN) により、ウェブサーバーが識別されます。DN には BIC および URL が含まれます。

以下の図は、ウェブサーバー用の証明書 DN を示しています:



通常、サービスプロバイダーは 1 つもしくは複数の URL を持っている SWIFT ユーザーです。サービスプロバイダーは、URL を登録する前に SWIFT と協議する必要があります。

## 6.3.2 フォーマット

### X.500 DN セグメント

ウェブサーバー証明書用の X.500 準拠 DN は、以下の表にあるセグメントから構成されています:

#### ウェブサーバー DN セグメント

セグメント	フォーマット	有無	頻度
固定文字列	c=ww	必須	1
SWIFT ユーザーの BIC コード	o=<bic8>	必須	1
共通名	cn=<url>	必須	1

#### ウェブサーバー DN ルール

ウェブサーバー DN には、以下のガイドラインが適用されます:

- <bic8>は、サービスアドミニストレーターの BIC8 です。
- 全てのセグメントは、“ウェブサーバー DN セグメント” ページの 29 で示されている通りに発生する必要があります。
- セグメントはカンマ ( , ) で区切られます
- ウェブブラウザ DN は最大 100 文字まで可能です

- <url>は、以下の表に記されたセグメントにより構成されています:

#### URL セグメント

URL セグメント	フォーマット	有無	頻度
サービス名	<service-name>	必須	1
SWIFT ユーザーの BIC コード	--<bic8>	任意	1
固定文字列	.swiftnet.sipn	必須	1
固定文字列	.swift.com	必須	1

#### URL セグメントルール

URL セグメントには、以下のルールが適用されます:

- URL セグメントは、“URL セグメント” ページの 30 の表に記載されている通りに発生する必要があります。
- <bic8>は、ウェブサーバーを稼働しているサービスプロバイダーの BIC です。<bic8>は、サービスアドミニストレーターの BIC と異なる場合にのみ適用されます。

---

**ノート** 1つのサービスアドミニストレーターの代わりに、複数のサービスプロバイダーがセントラルサービスを稼働させることができます。従って、稀ではありますが、サービスアドミニストレーターとサービスプロバイダーの BIC は異なることができます。

---

- <service-name>には、ドット (.) および感嘆符 (!) の代わりにハイフン (-) が使用されている、修正されたバージョンのサービス名が含まれています。サービス名に関するより詳細な情報は、“サービス名” ページの 19 を参照してください。

#### 例

##### ウェブサーバー DN 例

```
cn=swift-eurol-iws-pilot.swiftnet.sipn.swift.com,o=spabdef,c=ww
```